

論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表

学位規則第 8 条に基づき、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

フリガナ 氏名 (姓、名)	ロニ アルミス RONI Armis		授与番号 甲 1479 号
学位の種類	博士 (政策科学)	授与年月日	2021 年 3 月 31 日
学位授与の要件	本学学位規程第 18 条第 1 項該当者 [学位規則第 4 条第 1 項]		
博士論文の題名	A Study on the Competitiveness of Indonesian Historical Post-Mining Cities as Tourist Destinations (インドネシアの歴史的旧鉱山都市の観光地としての競争力に関する研究)		
審査委員	(主査) 鐘ヶ江 秀彦 (立命館大学政策科学部教授)	桜井 良 (立命館大学政策科学部准教授)	
	小川 圭一 (立命館大学工学部教授)		
論文内容の要旨	<p>地域発展の礎となった旧鉱山を抱える閉山後の都市の多くは、夕張市のように急速な人口減少とともに、地域経済衰退と財政破綻に直面している。文明の興亡や文化の興隆を引き起こした鉱山遺産の価値を観光転換したいという地域のニーズがあるものの、全てが世界遺産の石見銀山遺跡とその文化的景観のように世界中からの観光集客の機会を得られていない。本論文は、産業革命以後のインドネシアの歴史的旧鉱山都市の観光目的地としての競争力形成のための政策立案に必要な枠組みと要素について、序論、三章構成の本論、そして結論の 5 章にて構成されている。本論は、最初の章で観光地としての旧鉱山都市の魅力と競争力を同定した上で計測し、次章で観光地としての旧鉱山都市の再生における旧鉱山コミュニティの役割を分析し、本論の最終章にて旧鉱山都市を対象とした独自の鉱山遺産観光目的地競争力モデル (Destination Competitiveness Model: DCM) を明示した。</p> <p>本論文は、最初に訪問者の観点からインドネシアの観光資源の魅力を調査分析した結果から、鉱山遺産の魅力は、その保全と活性化に周辺の自然環境の美しさとの相関関係が有意に高いことを示した。しかし、鉱山遺産と地域間の競争力には中程度の相関関係しかなく、むしろ地域の安全性、ホスピタリティ、アクセス性が地域の競争力に与える影響が大きいことが示された。次に、インドネシアの事例都市のステークホルダーへの繰り返しの綿密なインタビュー調査の結果、先住民と移民から構成される旧鉱山地域のコミュニティの関わり方が、有形・無形の鉱山遺産の核心的価値の保全という鉱山遺産ツーリズムの発展に重要な役割を果たしていることを確認した。更に、個人の居住期間や家族構成要素が有意に寄与する結果となった旧鉱山のコミュニティの地域愛着度がその鉱山保全への役割の大きさに深く関与していることが示された。最後に、調査結果の分析から、インドネシアの旧鉱山都市の観光目的地競争力に与える影響モデル (DCM) には、持続可能な変容・転換過程が旧鉱山都市としての観光都市の競争力レベルに大きく寄与しており、次いで、観光目的地としての方針・計画・開発、観光地の管理、の三要素から構成できることが明示された。</p>		

論文審査の結果の要旨	<p>本論文では、植民地化時代に開発されて、欧州の産業革命に鉱物資源を産出したインドネシアの数少ない歴史的な閉鎖後の鉱山都市のうち、代表的な2都市事例を対象にした。第1事例が世界文化遺産のオンビリン炭鉱遺跡を有する内陸部の風光明媚なサワレント市である。第2事例はバリ島やロンボク島と同様に観光地としても知られている非常に美しい海と白砂海岸に囲まれた島嶼群に位置し、世界最大の資源企業 BHP ビリトン(現在 BHP グループ)の発祥地の錫鉱山がかつてあったビリトン市である。本論文の成果はインドネシアの歴史的旧鉱山都市の観光目的地としての競争力形成のための政策を形成するための政策変数について行政と地元企業、住民そして観光客に対する様々な調査と分析を行った。多様なステークホルダー群への質問紙調査のサンプル群の構成比率や違いなど、2事例間で全く同じサブセットとなっていないことは致し方ないため調査対象の比較限界とともに、解析結果の差異の有意差が確定できない限界があり、構造方程式のモデル化での感応度も異なるという限界点も指摘された。しかし、両事例共に 150 サンプルを超えた主要利害関係者への調査の分析結果から得られた重要な知見は、鉱山遺産と自然環境との組み合わせが重要であること、持続可能な発展のための衰退した鉱山跡の都市から鉱山遺産観光都市への転換に大きく寄与しているのは、先行研究とインタビュー結果から抽出された当初の作業仮説に示された5変数のうち「場所愛着」と「雇用創出」の2変数のみであることを確認した点は、今後の観光目的地への転換政策を図る上での重要な経済政策の変数となることを示した成果は大きい。最後に、構造方程式により表現された、複数の不適合モデルを修正し検定を経て試行錯誤の末導かれた最終 DCM は、その変数の信頼性(クロンバッハ・アルファ)検定の結果から本モデルの適合性が確認された。これにより、インドネシアの行政機関が観光政策への転換を図る上でも重要な推定式となった。</p> <p>本論文で提示された独自の調査データに基づいた鉱山遺産観光のための都市政策立案の知見は非常に有益である。また同時に、インドネシアの代表的な2つの鉱山遺産都市事例から試行錯誤の末に導出された鉱山遺産観光目的地競争力モデル(DCM)は、鉱業汚染・公害からの環境回復の事例比較研究以外では、これまで、研究事例比較が行われてこなかった鉱山遺産観光への転換という閉山後の歴史都市の継承と持続可能な地域発展における地域科学の政策研究に貢献した点は高く評価できる。今後、行政が定期的にパフォーマンスの測定と評価を通じて、特定の属性の改善により、短期的にも長期的にも観光目的地の競争力を向上可能とするために、変化に対する適切な政策変数と共に政策的含意を示した点は独自の優れた研究成果であると評価した。</p> <p>以上により、公聴会と口頭試問結果を踏まえ、審査委員会は一一致して、本論文は本研究科の博士学位論文審査基準を満たしており、博士学位を授与するに相応しいものと判断した。</p>
試験または学力確認の結果の要旨	<p>本論文の公聴会は2021年1月22日(金)17:20から18:20まで、立命館大学大阪いばらきキャンパスのA棟4階AN328教室において開催され、同時にZoomを通じて配信された。また、公聴会に先立ち、口頭試問は2021年1月11日(月)13時から14時まで、同キャンパスのA棟8階のAS861教室にて行われた。</p> <p>主査および副査は、刊行済みの査読付き論文を精査し、公聴会ならびに口頭試問における質疑応答を通じて博士学位にふさわしい能力を有することを確認した。</p> <p>従って、本学学位規程第18条第1項に基づいて、博士(政策科学 立命館大学)の学位を授与することが適当であると判断する。</p>

